## 愛のためにしよう

「ケイト、お母さんから 聞いたんだが、 買いたい パズルが あって、おこづかいを ためているそうだね。」 お父さんと ケイトは トーマスと 犬の パプが 庭の しばふで 遊ぶ 様子を ながめながら、話しています。

「ええ。もう 半分くらい たまったのよ。」 と、 ケイトが 答えました。

「お母さんと話していて、思いついたんだが、 パズルを 買う お金が 十分 たまるまで、 お母さんの お手伝いを して、おこづかいを かせぐのは どうだい?」

「うん、やりたい! ステキ!」ケイトは

まま
わず 声を 上げました。おこづかいが
たまるのが 来月に なると 思っていたのに、
もしかしたら、1週間くらいで パズルが
買えるかも しれないなんて!



それからの 二日間ほど、ケイトは 学校から帰ると、家の 周りの お手伝いを しました。 なち葉を はいたり、リビングルームの本だなの ほこりを はらったり、お父さんと お母さんの くつを みがいたり、食器だなの中を 片づけたりしました。

やがて、貯金箱の びんが いっぱいに なってきました。あと 二日ほども すれば、必要な分が 全部 たまるでしょう。

「ケイト、洗った お皿を 片づけて くれないかしら?」 お母さんが よびました。 ケイトは お金を 数えていましたが、片づけて、 キッチンに 向かいました。



「この 仕事を やったら、いくら もらえるの、 お母さん?」 キッチンに 来ると、ケイトが たずねました。

「あら、学校から 帰ったら、30分 お手伝いしてくれることに なっていなかった?」

「ええ。でも、もう 30分 やったの。だから っ っ っ これを したら、余分に もらえるのよね?」

「まあ、そういう ことに なるのかしら・・・。」 ゆっくりと、お母さんが 言いました。

ケイトは にっこりして、お手伝いを 始めました。

その夜、夕食が 終わると、お父さんが ケイトに 言いました。「ケイト、今日は おまえ一人で お皿洗いを してもらえないかな? 公さんは、サッカークラブに いる トーマスを むかえに 行かなくては いけないんだが。」



「もちろんよ。この 仕事を やったら、いくら もらえるの?」と、ケイトが たずねました。 内心、今日 1日だけで いくらに なるだろう、なんて 喜んでいました。

お父さんは ちょっと びっくりして、いで配った 顔を しました。「ケイト、家の手伝いを するたびに おこづかいを あげるわけには いかないよ。お父さんたちは、おまえが ほしがっていた パズルが 早く 買えるように、おこづかいを ためる 機会を あげたかっただけなんだ。だけど、家族の一員で あるという ことは、おたがい が うっために、必要な ことは 何でも 喜んで やるべきだという ことなんだよ。」

ケイトは がっくりしました。



「悲しくなるわ。」 ケイトは 自分のふるまいが はずかしく なりました。お昼過ぎにお母さんに 頼まれて お血を 片づけた 時も、内心 変な 気持ちが していました。ふだん 家の お手伝いを する 時とは 何かが ちがっていたのです。「ごめんなさい、お父さん。わたし、おこづかいを ためることばかり 考え過ぎていたんだわ。もちろん、お血洗いを するわね。」

お交さんは ケイトに ハグを して 言いました。 「ありがとう、ケイト。うれしいよ。トーマスも、 ががしましてくれてるさ。」 ケイトの 心は 思わず またた。 温かく なりました。



ケイトは、もう おこづかいを かせぐことばかり 考えないように しようという しました。その週は ずっと、できるお手伝いは 何でも しました。おこづかいをもらえない 時もです。家族を 愛し、みんなのために 家庭を 心地よく できるのがうれしかったのです。そうすると、みんなもケイトに 同じように してくれました。

ついに 十分な おこづかいが たまると、 お父さんと お母さんと トーマスも みんな、 ケイトと いっしょに お店に 行って、 500ピースの パズルを 買ってきました。

その首の 午後は、ホットココアを すすり、 焼きたての スコーンを かじりながら、みんなで いっしょに パズルを しました。

## き終わり

文:アリーヤ・スミス 絵:アルビ デザイン:ステファン・ミーラー 出版:マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2015年、ファミリーインターナショナル "Do It for Love"--Japanese 関連の読み物はこちら ⇒ 愛

